

第28回 中国・四国・九州地区 理数科高等学校課題研究発表大会 に出場しました

開催日 令和8年8月20日(木)～21日(金)

場 所 沖縄科学技術大学院大学(OIST) (沖縄県恩納村)

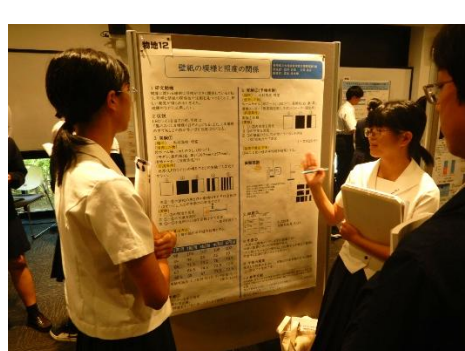
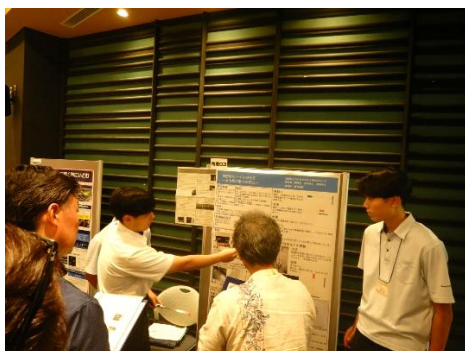
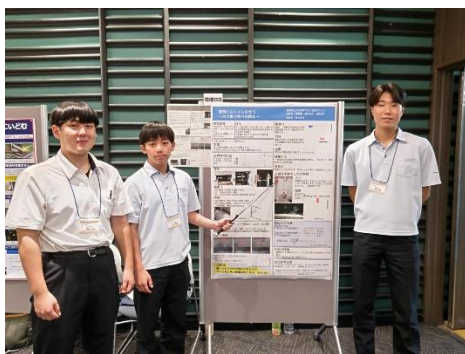
趣 旨 中国地方・四国地方・九州&沖縄地方の理数科(文理探究科)設置校から代表選出された理科・数学・情報系の探究チームが、口頭発表やポスター発表を行う。
全国大会は無いので、これが実質、県大会より上の最上位大会となる。

区 分 ポスター発表の部

出場班 ・「理想的なトイレの仕方～水の飛び散りの防止～」

文理探究科3年 開 陽翔、渡海 颯太、福尾 勇大

・「壁紙の模様と照度の関係」 文理探究科3年 岩坪 杏奈、久保 美月



生徒感想

皆、探究への思い入れがあるようで、たくさん書いてくれました。
充実した探究活動になり、今大会参加もいい経験になったようです。

今回の探究活動で私は自分たちで考えた研究を多くの人に知ってもらえることに嬉しさを感じました。なにより、私たちの発表はユニークで、男性用小便器に関する研究内容なので、聞いている人が共感したり、楽しく聞いたりしてくださる姿を見てとても楽しく思いました。また、男性だけでなく女性にも見ていただくことができ、アドバイスをいただけたので参考になりました。

分かりやすい発表にするためにポスターのレイアウトや文の長さを工夫し、試行錯誤を重ねたり、想定される質問についてあらかじめ考えたりすることもしました。一方で、ポスター制作や発表準備をテスト期間と並行して行い、夜遅くまで作業することもあり、大変なこともありました。

大会では、レベルの高い質問や、自分たちの気づかなかった点についての指摘をいただき、その点を考慮してさらに研究したいという意欲が湧いてきました。また、他校の発表もどれもレベルが高く、さまざまな研究方法や視点に触れることができ、とても刺激になりました。この経験を今後の活動にも生かしていきたいです。

探究活動では、自分たちで課題を見つけ、実験や調査をしながら研究を進めていく中で、思ったような結果が出なかったり、ポスターにまとめたりすることが大変でした。しかし、何度も試行錯誤することで、研究を深めていくことの大切さを学ぶことができました。

今回の大会では、県の代表が集まっているだけあって、他校の発表のレベルが高く、研究の内容や発表の仕方など、参考になることがたくさんありました。また、男子だけでなく女子の生徒や他校の先生方も興味を持って発表を聞いてくださり、質問もたくさんしてくださったので、緊張しすぎずに発表することができました。自分たちの研究に興味を持ってもらえたことが嬉しかったです。

普段の学校生活ではできない経験や、他校の人たちの発表を聞くことで新しい発見もあり、とても刺激を受けました。今回の大会で学んだことをこれからの活動にも生かしていきたいと思います。今回参加することができて、本当に良い経験になりました。

2年生からの課題探究を通して、研究というものはどのように進めていくのがいいのか、そして思うように行かないことが多くあると実感できました。専門教科と違う内容で進めていく中で、分からないことが多くありましたが、先生方の考えなども聞きながら何とか自分たちの研究を進めていくことができました。反対に、専門でないからこそその独創的な発想を自分たち自身で出せたことも多くありました。分からないことを考える大切さも、聞く大切さも両方学ぶことができました。

発表の場を何度も経験したことで、ほかのレベルの高い研究や、自分たちにはない考察を知ることができて良い経験となりました。大学生になって本格的に研究をやっていく前にこのような経験ができたことは自分自身の成長に繋がるものになりました。この活動を通して得た知識や論理的な考え方を大学生活、その後の社会でも十分に活かしていこうと思います。

（生徒感想 続き）

探究を行って楽しかったことは、自分たちで考えた方法で実験ができたことです。考えた実験装置や方法を少しでも正確な実験データに近づけられるよう自分たちが考えたように操作し実験ができる面白さは何にも代えがたいと思います。思い残すことは、班の人数が少なく十分なデータが取れなかったこと、統計的な観点から考察をしなかったことです。

大変だったことは、ポスター発表前に班員とこの実験のゴールはどこなのか、何のためにこの実験方法をとっているのか、十分に情報共有ができておらず、すれ違いが発生したことです。また、各作業の報連相もうまくなされていないことも多くあり、対話で一つ一つ確認することと報連相の大事さを学びました。

今大会では、貴重な経験を得ると共に、他校のハイレベルな視点や分析力に大きな刺激を受けました。

自分の研究を見つめ直す中で強く実感したのは、一つのデータからどこまで深掘りできるか、という思考の深さの重要性です。表面的な問題解決に留まらず、背後にある本当の原因を探る面白さを学べたことは、予測困難な社会を生き抜く上での財産になると確信しています。

探究活動はここで一区切りとなりますが、この大会で培った「問いを深く考える力」を今後も活かしていきたいです。

生徒感想は以上です。

次年度のこの大会は、香川県観音寺市にて開催されます。

今の文理探究科の2年生の中で、理科・数学・情報関連に関する研究を行っている班は、校内予選会、長崎県大会を経て、香川大会に出場できる可能性があります。

先輩を見習って、現2年生もぜひ頑張ってください！